

令和7年度光市総合教育会議 会議録

1 開催日時

令和7年11月27日（木）午後2時～午後3時10分

2 開催場所

光市教育委員会1階ホール

3 出席者

(1) 構成員

光市長 芳岡 統

光市教育委員会 教育長 伊藤 幸子

〃 教育委員 寺崎 益朗

〃 教育委員 武田 伸治

〃 教育委員 岩佐 光恵

〃 教育委員 藤本 晋治

(2) 説明員

教育長 伊藤 幸子

(3) 関係者

小山教育部長、加川教育部次長兼教育総務課長、吉永ひかり学園推進課長、岩政学校教育課長、田中学校教育課主幹、久山文化・社会教育課長兼人権教育課長、三好スポーツ推進課長、宮本部活動改革推進室長、大濱図書館長、中野学校教育課指導係長、宮内学校教育課指導主事、奥屋教育開発研究所主任研究員、永光学校教育課教育企画員、山本教育総務課経理係長

4 傍聴者

1名

5 次第

開 会

(1) 市長あいさつ

(2) 議 事

第3次光市教育大綱の策定について

閉 会

6 議事録（要旨）

開 会

（1）市長あいさつ

それでは、会議の開催に当たりまして、一言ごあいさつを申し上げます。

本日は皆様お忙しい中、総合教育会議にお集まりいただきまして、ありがとうございます。また、平素から教育分野にとどまらず、市政全般にわたりご尽力をいただいておりますことを心より感謝申し上げます。加えて、本年度の山口県選奨の教育功労の栄に浴されました寺崎様におかれましては、心よりお慶びを申し上げます。

さて、私事ではありますが、今月 14 日で市長に就任してから 1 年が経ちました。皆様方からは、早かったと言われる日もあれば、まだ 4 分の 1 しか済んでないんだと言われることもありながら、日々いろいろな思いを巡らせるわけですが、ひとえに皆様方のご支援や協力のおかげと、重ねて感謝を申し上げます。

1 年前、私は選挙公約の 5 本の柱の一つに、子どもたちの成長と学びを支えることを掲げました。私自身も親父として 3 人の子どもを育て、おやじの会や P T A 活動に取り組んできたこと、そして、わずか 1 年ではございましたが、教育部長時代には第 2 次教育大綱、そして施設一体型小中一貫ひかり学園の新設に係る方針の策定に携わらせていただいたことが、今の私の根幹にあります。この公約には、私の並々ならぬ教育に関する思いを込めさせていただきました。

また、市長就任後も皆様方の先進地の視察に急遽ご同行させていただきました。異なる執行機関とはいえ、教育委員会、教育委員の皆様と同じ時に、同じものを見て感じるということは非常に有意義であり、私にとって貴重な経験となりました。そういった意味で、本日の総合教育会議は、「おっぱい都市宣言のまち 光市」の宝である光っ子、これを私たち大人の責任において、どのように育み、その無限の可能性をどのように伸ばしていくのか、このことを様々な思い、そしてお立場をもってお集まりいただいた皆様と、まさに総合的に考えて協議することができる絶好の場だと考えております。

今日の議題である、新たな第 3 次光市教育大綱の策定は、まさにその大きな方向性を決める大変重要なもので、普遍的な教育の使命を踏まえながらも時代に応じた新たな視点、これを盛り込み、このまちの教育の在り方を対極的にかつ俯瞰的に記そうとするものでございます。新しい大綱には、子どもたちがこの市の豊かな自然と温かな人のつながりの中で学ぶ喜びを実感し、自らの可能性を信じて未来を切り開いていく素地を育むとともに、ふるさとに誇りと愛着を感じ、光市を大好きになってほしいという思いも込めたいと思っています。特に、今年 4 月の大和小学校の開校を皮切りに、生徒一体型の新校舎での活動を見据える小中一環やまと学園にとっては、新たな学校運営の背骨になるものと信じています。

この度、伊藤教育長にご再任をいただき、また新たな委員に藤本委員をお迎えいたしました。委員の皆様には、次期教育大綱の策定に向けて、どうぞ忌憚のないご意見ご提言をいた

だきますようお願い申し上げます。

結びに、本日の会議が本市の教育の発展に向けて実りあるものとなりますよう祈念を申し上げて、開会があたっての挨拶とさせていただきます。本日は最後までよろしくお願いいたします。

(2) 議 事

第3次光市教育大綱の策定について

内 容：資料、パワーポイントを用いて伊藤教育長より説明

※今後の予定として、子どもへの意見聴取を実施することを説明

【質疑、意見等】

(構成員)

今、教育長から第3次光市教育大綱の策定について説明がありましたが、教育長の説明に対する内容についての質問でも構いませんし、それをお聞きになった上でのご意見等でも構いませんので、委員の皆様からご発言をいただければと思います。

(構成員)

私は保護者の立場で10年、また、その内の7年はPTAの立場から光市の教育に関わらせていただいています。その上で、光市の教育においては、地域の方の協力が素晴らしいと思っています。

光市では、保護者とコミュニティ・スクールの運営協議会等を通して、地域の方にも協力をいただきながらいろいろな活動を行っていると思うのですが、これは全国的に見て、どこも同様の状況なのか、あるいは光市が先進的な状況なのか、お教えいただければと思います。

(構成員)

私も全国を回ったわけではありませので、光市を基準に状況を捉えることになるのですが、本市にはコミュニティ・スクールをどう立ち上げ、どう運営していくかというようなことを勉強したいということで視察に来られる自治体が非常に多くいらっしゃいます。それは、とてもありがたいことだと思っており、本市の取組にはいろいろな方にお力を貸していただいていますけれども、一定の進み具合であるということとは言えるのではないかと感じています。

(構成員)

ありがとうございます。私はもともと光市が好きなので、こうした取組はとても良いものだと思っているのですが、光市がリードしているという認識で理解し、今後も保護者の立場で協力できればと改めて思いました。

(構成員)

ありがとうございます。私もいろいろな地域や自治体の状況が耳にしますが、地域ごとに特色があり、強みを生かした取組というのは、どの自治体も自慢をされているところです。

ただ、私がいつも思いますのは、各イベントについて、その背後で支えてくださっている皆様方の結集力を強く感じており、それは、本市にとってはかけがえのない宝なのではないかと思っています。

(構成員)

先ほど、教育長から第1次及び第2次教育大綱、それぞれの成果と課題についてお話がありました。やまと学園が令和10年から小中施設一体型の活用が始まる予定ということで、先進地視察をさせていただいておりましたが、ソフト面での運用が課題になってくるという点については、共通の認識であると思います。

課題として挙がっております英語教育ですが、イングリッシュプラン光として英語教育に力を入れていくためには、英語を用いたコミュニケーション能力の育成が必要です。しかし、中学生の海外派遣事業に参加できる方はごく一部であり、英語スピーチコンテストに参加される方も全員ではありません。英語の体験型ワークショップであれば、多くの子どもたちが参加できると思いますが、みんなが楽しく参加できるように、中学校3年生が成果を発表して、外部にアピールするということが大事だと考えています。

一つのアイデアとして、合唱コンクールにおいて中学3年生が好きな英語の歌を選び、それを英語で発表してもらうことを提案したいと思います。その準備として、子どもたちが英語の歌詞がどういう意味なのか学びながら発表する、そういった遊び心を交えて、子どもたちが自然に参加できた、というようなことがコミュニケーション能力を育成する取組となると思うので、こうした皆が楽しみながら参加できる仕組みを作っていただきたいと思います。

(構成員)

ありがとうございます。委員さんからご指摘いただいたように、私たちも一部の限られた子どもだけではなく、多くの児童生徒が楽しみながら英語を使う機会を、日常のカリキュラムやイベントなどの取組につなげていっております。それに多くの子どもが巻き込まれて、一緒に活動できることが必要であると感じています。

(構成員)

伊藤公カップ英語スピーチコンテストについて、中学生は、ある程度英語に興味や関心がある生徒が、暗唱や弁論といった高度なものに取り組んでいます。また、小学生は、自分の思いや願い、経験などを英語でアピールしてみることに挑戦して、その成果が出始めています。

更に、中学生の英語の授業では、日常的にちょっとしたスピーチ、ペアトークなどを行っている学校もありますので、これらの活動を発展させて、多くの子どもたちが気軽に表現できる機会を考えているところです。英語は、子どもたちが自分の思いなどを日本語よりも表現しやすかったりする面がありますので、日常のカリキュラムとイメージが連動するような取組を進めていきたいと考えています。

(構成員)

ありがとうございます。私は、英語は成功体験が大事なのではなく、失敗体験が重要だと思います。例えば、遊びや授業の中で日本語を使わずに会話しようとしても、つい日本語が出てしまう、というようなことがあります。そういった失敗を経験することは恥ずかしいことではなく、むしろコミュニケーション能力の向上につながると考えていますので、楽しい取組を、いろいろと考えていただきたいと思います。

(構成員)

先日、移動市長室を中学校でお受けしまして、その内容は、光市のまちづくりについて思うことや、学校給食や地産地消を発展させたいなどといったいろいろな提案を行うというものでしたが、最後に私にプレゼンをするときに、英語でやってみようということになりました。そのとき、これは総合学習の授業の一環ではなくて、英語の授業だったんだということに気づき、驚きました。

私たちの世代が受けていた英語の授業は、教科書を読んで訳したり、テープを聴いたりするものでしたが、今の授業では、先生はいろいろと生徒の興味や関心を引く授業のあり方を考えておられるんだな、と強く感じましたので、さらなる授業の深化などをお願いしたいと思います。

(構成員)

VUCAという単語について調べたところ、変動性、不確実性、複雑性、曖昧性と表記されていて、こうした世の中が急速に変わっていくという状況の中で、子どもたちも教育を通して様々な難しさを感じているんだろうな、ということを確認させてもらいました。また、こうしたいろいろな方向性がある社会において、子どもたちが自分で考えて、自分で進めていくという柔軟な対応力を持ち、迅速に意思決定していくことが必要だと感じていますので、そうした教育を提供する場として整えていくことは、とても重要なことだと思いました。

また、不登校の生徒や、配慮が必要な生徒はたくさんいらっしゃると思いますが、その子どもたちにも、胸を張ってほしいなと願っています。一人一人を大切にしていって、互いを尊重する、個性を大事にするというような、一人も取り残さないという視点は非常に重要だと感じています。施策の柱に「未来社会を自立的に生きる力を育む」という指針がありますが、環境を整えてもこぼれ落ちてしまうような方もいらっしゃると思いますので、そういった方にも目を向けて推進していただきたいと思います。

(構成員)

委員さんがおっしゃるように、誰一人取り残さない社会の実現に向けて、こぼれ落ちてしまうような方が出ないように、教育と福祉の連携が今後ますます重要になってくるのではないかと考えています。

(構成員)

スライドの23 ページに「子どもが主役で幼児期から18歳までをつなぐコミュニティ・スク

ールの進化」とありますが、この18歳までをつなぐのは誰なのか、ということを考えてみました。この図で言いますと、オレンジ色の線が示しているがつかないという部分です。

この5年を振り返ると、第2次教育大綱の期間中にコロナ禍があり、コミュニティ・スクールの地域活動が影響を受けたと感じています。先生方は概ね3年程度で異動し、生徒も毎年入れ替わる中で、コロナによって活動が一時止まってしまったため、再開したときには先生も生徒も地域活動に不慣れな状態になっていました。しかし、コロナの状況が落ち着いた現在では、活動が再び盛んになりつつありますので、そこは地域の方々につないでいただいていたのではと感じています。

一方で、学校統廃合の影響もあるのではないかと考えます。以前は各小学校に地域の方が関わっていましたが、学校が一箇所に集約されることで、地域との関係が薄れることも考えられるので、今後どのように変化していくのかは、注視していく必要があると感じています。

更に、同時期に部活動改革が進められ、子どもたちはより広い地域の方々と関わる機会が増えた一方で、その活動に参加していない子どもや、放課後に生徒と教員が授業以外で関わる機会は、以前より減っているのではないかと感じています。

コロナ禍では地域の方々に支えられていましたが、今後のコミュニティ・スクールにおいては、さらに地域とのつながりが重要なポイントになると思います。現在の図では、地域との関係が矢印で示されているだけで分かりにくいいため、その意味や役割を地域の方に分かりやすく伝え、参加を促していく必要があると考えます。

また、コミュニティセンターについては、学校と相互に行き来しやすい仕組みを進めていかなければ、地域とのつながりは太くならないと感じています。地域全体が学校を包み込むようなつながりの実現に向けて、今後さらに取り組んでいく必要があると感じました。

(構成員)

まず、小学校の再編は既に大和小学校で行われており、委員さんにご指摘いただいたことについては、議論のうえ様々な取組を行っていますので、後ほどひかり学園推進課長に説明していただき、その実態を共有したいと思っています。

また、学校運営協議会を進めるうえで、もっと地域を巻き込むということについては、学校運営協議会の力だけではなく、地域学校協働活動や家庭教育支援チームが両輪で回っていく必要があると思っていますので、コミュニティ・スクールの進化という点については、こうした仕掛けが必要なのかではないかと感じています。

(関係者)

小学校の例で申し上げますと、やまと学園の取組を進めていくにあたって、準備委員会を立ち上げ、地域の方や学校関係者の方にお集まりいただき協議を行い、その中で、地域部会を立ち上げ、地域と新たな小学校との関わりについての議論を深めてまいりました。おっしゃられましたように、それぞれ地域に根差した団体等もありますので、そこをどうつなげていくかというところですが、例えば老人クラブや読み聞かせボランティアの方々が一堂に集まって、新たに引き継いでいこうというような話し合いも進んでおり、現在、大和小学校の中では新たに4つの地域の枠を超えた取組が生まれています。

また、子どもたちが関わる地域の伝統文化をどう引き継ぐかというところも議論になりました。具体的には石城太鼓や東荷神舞などが挙げられますが、昔は、石城太鼓は塩田小学校の子どもだけで取り組んできたものですが、今では大和地域の子どもの中から希望者が参加し、引き継いでいっています。このような取組を進める上で、子どもたちを真ん中に置いて、地域が新たに紡ぎ直す努力が重要になっていくのではないかと思います。

(構成員)

準備委員会の方々は、各地域から、学校のために何をするべきかを話し合うために集まったメンバーだと思います。今後もこうした方々とのつながりを維持しながら活動を広げていただければ、素晴らしい展開になっていくと思いますので、そういったところをしっかりとやっていただけたらいいのではないかと思います。

(構成員)

委員さんから、子どもをつなぐのは誰か、というお尋ねであったかと思います。私が各地域に出向くと、「学校が一つになると子どもが地域からいなくなった」と言われることがあります。しかし実際には、授業が終われば今まで通り帰ってきますし、土日はそれぞれの地域で過ごしています。地域の子どもは地域の子どものままであり、引っ越してしまったわけではなく、そこは今まで通り変わっていないよ、ということをお伝えしています。

一方で、課長からもお話がありましたように、伝統文化などの指導については、今までも地域の子どもたちがある程度の技能を取得していたりしますが、学校規模が大きくなり、学びたい児童が増えると、これまでたまにしか呼ばれなかった指導者の方が毎週呼ばれるようになり、教える機会が増えたことに大変喜ばれている方が多くいらっしゃいます。大人側も指導を通じて新たなやりがいを見いだしており、こうした人をいかに増やすか、逆に、子どもが減って寂しく感じている方がいらっしゃるのであれば、今まで通りの活動の場をどう広げていくかという取組や努力が必要になります。

そのため、コミュニティセンターの役割がますます重要になります。昔は教頭先生が中心になって地域に出向き、指導者を探すこともありましたが、今後、教頭先生がコミュニティセンターに相談すれば、コミュニティセンターがすぐに該当する人を呼べるような関係が築ければ先生方の負担も軽くなり、地域の人たちの力を学校教育にうまく生かせるようになりますので、コミュニティセンターの役割にも期待したいと思います。

(構成員)

小中学校を定年退職された教員の方の中には、まだまだお元気で、学校に関わりたいと考えている方が多くいらっしゃるのではと思います。

現状、学校では、教員が産休などで不在になることも多いと思いますので、先ほどのお話がありましたように、コミュニティセンターなどが中心になって先生を登録するなど、学校に呼び出すことができる教員がたくさんいれば、学校教育の充実につながるのではないかと思います。予算などの課題もあると思いますが、こうした取組は何か行われていますか。

(関係者)

教員不足は全国的な問題ですが、定年退職は62歳まで延長されておりますし、65歳までは再任用という形で活躍されており、中には担任をされている方もいらっしゃいます。

また、教員免許をお持ちの方等には、光っ子サポーターという教育支援員としてお手伝いを願うなど、いろいろな形で教育に引き続き関わっていただく人材を求めています、実際に活動している方も少なくありません。しかしながら、それでもまだ十分な状況ではないという認識です。

(構成員)

ありがとうございました。現状が分かって安心しました。

(構成員)

最後に、私からお伝えをさせていただきます。

昨日、東京出張した際に、全国市長会の有志による会合に参加しました。テーマは「学校の統廃合プロセスと廃校活用」で、先進事例の紹介も含め、議論が行われました。そこで伺ったのは、学校の統廃合は着実に進められていますが、多くの事例では、少人数の学校が増え、複式学級が生じたため対応に悩むという段階から始まっており、「自分たちの学びをどう確保するか」という課題を出発点に検討が進められているという事例が大半でありました。本市では、あくまでもコミュニティ・スクールを基盤にすることとして、今の学校体制のまま小中一貫教育を開始したところですが、連携するにしても距離があつて人の移動が大変であるといったものや、学校施設の長寿命化のための大規模改修を行うべきか、それとも建替えを行うべきかといった課題を複合的に考える中で、施設一体型小中一貫ひかり学園という取組を、光市の教育として進めていくという大きな方針を掲げ、複式学級といった課題があるところから順に進めていこうとしておりますが、昨日の会合では、そういった方針、発想を持つような事例はありませんでした。

そういった意味では、教育委員会の皆様方は子どもたちに対して、きちんと筋の通った取組をされていると、手前味噌ながら改めて実感したところです。今後、やまと学園を皮切りにしっかりと成功させて、引き続き全国から視察に来てもらえるように、また、次代に向かう子どもたちのために、方針を具現化していきたいと思っていますので、その実現のためにも、この度の教育大綱について皆さんの意見をしっかりと勘案しながら、今日の会議だけでなく、教育委員会会議等でもしっかりとブラッシュアップしていただければと思っています。まとまりのないまとめになりましたけれども、いろいろな面でご尽力いただければと思います。本日は貴重なご意見をありがとうございました。

午後3時10分終了